

韓国の子ボテン研究所を訪問

2017年9月上旬に韓国ソウル近郊(高陽市)にある子ボテン研究所を訪問し、韓国の子ボテン産業と研究について調査してきました。

↓研究所外観



韓国 サボテン研究所

↓研究所職員の方々と



↓観光・教育用温室
(敷地内には研究用温室が20以上)



韓国 サボテン研究所

韓国はサボテンを主にヨーロッパに輸出(ソウル近郊が主な産地)。
施設内ではサボテンや多肉植物の育種・栽培技術開発・組織培養などを実施。



↑ 緋牡丹の育種(上は親木)

商品→



サボテンの栽培用トレイ

土がついていると輸出ができない(地上部を切り取って販売)。このトレイはサボテンの保持・作業性の向上に役立っている。



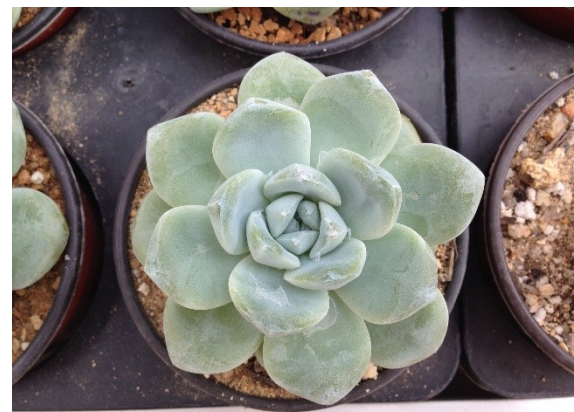
地上部を切り取りやすい。





多肉植物の生産技術開発・育種

近年、韓国ではサボテン以外の多肉植物を生産する農家の方が圧倒的に多いとのこと。



暖房設備

高陽市は冬には -10°C 近くになることも。

秋～冬季は暖房を利用し生産。

ソウル近郊は空港も近く輸出しやすいなどのメリットがある。



組織培養

組織培養技術によりサボテンの増殖・ウイルスフリー化が可能に
手法は教えて頂いたので10月から私の研究室でも開始予定。



↓ 緋牡丹の培養細胞(カルス)



↑ ピタヤ(ドラゴンフルーツ)